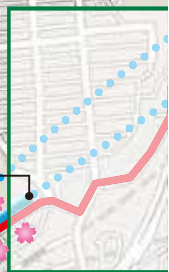
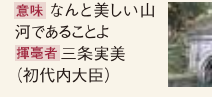
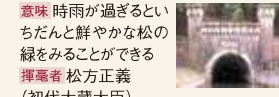
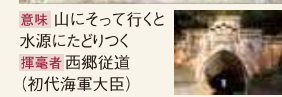
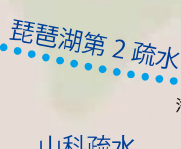


大津一山科一鴨川コース
Otsu - Yamashina - Kamogawa Course







水路がつなぐ、明治のロマン

歴史をたどる

水路旅

真っ直ぐに伸びるトンネルの、遥か向こうのかすかな光。それは、明治期に成し遂げられた奇跡の光でした。今も京都に「命の水」を運び続ける琵琶湖疏水は、歴史の偉業を語り続けるトンネルを抜け、桜や新緑、紅葉に彩られる山裾を縫って、ゆるやかに進みます。約70年の時を経て復活した観光船「びわ湖疏水船」に乗り、疏水沿いを歩くことで触れられるのは、明治の偉業から生まれた、京都と大津の知られざる魅力です。

1 京都と大津を繋ぐ「希望の水路」

日本の都であった京都は、明治維新の事実上の東京遷都によって、人口が3分の1も減少。まちの再生を図るため、京都と大阪をつなぐ琵琶湖疎水の建設を第3代京都府知事

きたのまことにみち
北垣国道と若き

ちのなづか
技術者 田邊朗郎
に託しました。



北垣国道(左)と田邊朔郎(右)|田邊家資料

2 暮らしとまちを大きく発展させた水力発電

第1疏水の完成で人々の暮らしを最も変えたのが水力発電。嶺上^{けいあげ}で日本最初の事業用水力発電所が稼働すると、まちに電灯が灯り、中小工場の機械化が進んだほか、日本初の電気鉄道の営業がスタートしました。



日本初の電気鉄道(京都電気鉄道)

3 琵琶湖から大阪までを繋いだ舟運

第1疏水の完成により、大津から京都を経て大阪までの舟運が開き、物流の拡大が経済と産業の発展につながりました。舟運は今、観光船として第1疏水をたおやかに進み、琵琶湖疏水の魅力を間近に感じさせてくれます。



舟運の様子(蹴上船溜)「田邊家資料」

4 防火用水と日本屈指の近代庭園群

京都御所の防火のため、御所水道ポンプ室がつくられたほか、岡崎地域には近代最高峰の作庭家小川治兵衛の手により疏水の水を利用した日本屈指の近代庭園群が形成。無鄰菴は明治期を代表する庭園です。



名勝 無鄰菴の庭園「©植彌加藤造園

5 蹴上浄水場からの安全・安心な水道水の供給

「京都市三大事業」の一環として進められた第2疏水の建設は、明治45(1912)年に完成し、同年には、豊富となった水資源を利用して、蹴上浄水場から日本初の「急速ろ過」方式による水道の供給が始まりました。



現在の甌上浄水場

6 時を超えて 今も生き続ける琵琶湖疏水

京都を再生と飛躍に導いた琵琶湖疏水は我が国の近代化を伝える貴重な産業遺産です。この壮大な事業が、今も京都のまちと暮らしを潤し続け、時を超えて息づいています。



びわ湖疏水船の運航

各ストーリーについて詳しくは、琵琶湖疏水
日本遺産特設サイトにて紹介しています。
<https://biwakosui.city.kyoto.lg.jp>

